

28. QOL と EuroQol 5 Dimensions(EQ-5D)

From MY point of view

- 高齢化や慢性疾患の増加、医療におけるテクノロジーの進歩による医療の高額化に伴い、医療資源は有限なものとしてとらえられるようになった。そのため、生命予後の改善など伝統的なアウトカム指標のみでは医療評価は不十分であり、QOL のような患者立脚型のアウトカム指標が必要となってきた。
- 健康関連 QOL とは「疾患や治療が、患者の主観的健康感(メンタルヘルス、活力、痛みなど)や、毎日行っている仕事、家事、社会活動にどのようなインパクトを与えているか」を示すものであり、測定するために多くの尺度が開発された。

出典：臨床のための QOL 評価ハンドブック

- 急速に進む高齢化と医学の進歩による急性疾患の減少と相まって、慢性疾患が大きな比重を占めるようになり、治癒や延命よりも患者の生活の質の向上が治療の目標とされるようになってきた。
- 従来多くの疫学研究や医療評価において罹患率、合併症発症率、死亡率などのアウトカム指標が重用されてきたのは、定義が明確であり、万人に共通の指標で、様々な比較に活用できたからである。
しかし、1980 年代頃から、住民や患者の主観的な評価指標を重要視することを特徴とする患者立脚型アウトカム(代表例として、健康関連 QOL や患者満足度など)の重要性が認識されてきた。
- QOL は、とても曖昧な概念である。QOL の測定を明確に位置付けるためには、測定の対象はあくまでもその個人の健康状態に直接起因する要素に限定する必要がある。QOL を構成する基本的な要素を、「身体機能」「心の健康」「社会生活機能」とするコンセンサスはできつつある。
- **【健康関連 QOL の評価尺度】**
 - **包括的尺度**: どのような疾患にも適用可能なように一般的な状態を評価するもの
 - QALY (Quality-adjusted life year: 質調整生存年) 算出に用いるもの 例: EQ-5D、HUI、SF-6D など
 - QALY 算出に用いないもの 例: SF-36 など
 - **疾病特異度的尺度**: 疾病に特異的な症状などについて評価するもの
- **EQ-5D : 健康関連 QOL を測定するために開発された包括的な評価尺度**
1987 年に設立された EuroQol グループが開発、170 以上の言語バージョンがあり世界各国で使用
5 項目の質問で構成され(簡便で、調査時の患者負担が軽度)、各国が独自に質問を加えることは不可
移動の程度、身の回りの管理、ふだんの活動、痛み/不快感、不安/ふさぎ込み
回答結果をもとに「完全な健康=1」「死亡=0」と基準化された健康状態のスコア(効用値)を算出可能
当初 5 項目 3 水準(3 levels)で構成されていたが、感度が十分といえなかったため、5 項目 5 水準(5 levels)
に変更された EQ-5D-5L が開発された。
一例:《EQ-5D による神経障害性痛患者の QOL 評価》 Pharmacoeconomics 2009;27:95-112 より一部改変引用

	EQ-5D			
	average	mild pain	moderate pain	severe pain
神経障害性痛疾患	0.44	0.67 - 0.7	0.46 - 0.5	0.16 - 0.2
糖尿病性ニューロパチー	0.41 - 0.50	0.59 - 0.7	0.43 - 0.5	0.25 - 0.27
帯状疱疹後神経痛	0.60 - 0.61	0.69 - 0.72	0.58 - 0.63	0.25 - 0.27
三叉神経痛	0.56	0.7	0.54	0.3